

# 公式記録

(社)兵庫県サッカー協会  
兵庫県高体連サッカー部

## 平成23年度兵庫県高等学校サッカー選手権大会

準決勝 【 46 】

主審  
署名

赤沼 潤一

日時	2011年11月6日(日) 13:05 キックオフ				会場	アスパ五色 メイングラウンド				
天候	曇り	風	微風	ピッチ	天然芝・人工芝・クレー	状態	良好	試合形式	80分 / 延長 20分 / PK戦有	
マチミツコナ	辺見 康裕		会場主任	堀口 泰司		記録	田坂 昌彦 / 田村 孝次		観衆	500人
主審	赤沼 潤一		副審1	尾本 雅則		副審2	前田 晃男		第4の審判員	後藤 伸顕
チーム名	神戸弘陵学園高校				1	1	前半	0	後半	0
							延前			
							延後			
							PK戦			
							選手番号	P	選手番号	K
							○× 先	PK	先	○×

交代		シュート				選手名 (学年)		番号	位置	位置	番号	選手名 (学年)		シュート				交代	
No.	OUT時間	延後	延前	後半	前半								前半	後半	延前	延後	OUT時間	No.	
	分					山田 亮	3年	1	GK	GK	1	福井 恵輔	3年					分	
	80-2分					中川 喬登	3年	22	DF	DF	3	林 俊彰	2年					分	
	分					嶋谷 昇大	3年	③	DF	DF	12	霧嶋 貴一	3年					1分	
	分			1		森 佑太	3年	4	DF	DF	4	高見 将吾	3年					分	
	分					全 成希	3年	5	DF	DF	14	鈴木 貴之	3年					分	
	分			2	1	中西 真樹	3年	7	MF	MF	6	松村 圭悟	3年		1			分	
	分					江坂 巧	2年	15	MF	MF	⑦	西尾 将太郎	3年					77分	
	分				1	滝野 理貴	3年	9	MF	MF	8	安田 有希	3年	1				72分	
	80-1分				2*	小西 大登	2年	16	MF	MF	9	鎌田 竜太郎	3年		1			65分	
	分			2		吉田 直斗	3年	10	FW	FW	10	三船 一翔	3年	2	1			分	
	分				1	車 剛史	3年	11	FW	FW	11	留田 紫雲	2年	1	1			分	
	分					鈴木 一馬	3年	12	GK	DF	18	瀬部 樹	3年					分	
22	分					浅沼 悠	3年	2	DF	DF	5	吉田 尚弘	3年					分	
	分					澤 侑太	3年	6	MF	DF	23	山本 聖貴	3年					分	12
	分					岡本 健太郎	2年	23	DF	MF	15	山口 雅弘	2年					分	7
	分					今城 昌孝	2年	20	DF	MF	16	荻野 晋吾	3年					分	8
	分					岩本 直樹	3年	8	MF	MF	17	伊藤 大介	3年					分	9
16	分					村田 尚之	2年	21	MF	FW	21	立花 勇人	3年					分	
	分					中村 祐輝	2年	17	FW	FW	19	村主 龍平	2年					分	
	分					松崎 翼	2年	18	FW	GK	25	吉田 賢史	1年					分	

時間	警・退	No.	氏名	事由	合計	延後	延前	後半	前半	チーム合計	前半	後半	延前	延後	合計	時間	警・退	No.	氏名	事由
40分	警	4	森 佑太	反ス	10			5	5	シュート	4	4			8	33分	警	6	松村 圭悟	反ス
分					9			3	6	GK	7	7			14	分				
分					11			6	5	CK	1	3			4	分				
分					15			8	7	直接FK	6	5			11	分				
分					2			1	1	間接FK	0	1			1	分				
分					0			0	0	PK	0	0			0	分				

[警告事由] 反ス・ラフ・異議・繰返・遅延・距離・無入・無去 [退場事由] 不正・乱暴・つば・阻(手)・阻(他)・侮辱・警2

得点経過	時間	チーム	No.	得点者	スコア	[得点経過]	略号例: ドリブル~・ゴロのパス→・浮き球○・混戦×・ヘディングH・シュートS
	29分	神戸弘陵	16	小西	1-0	中央 X ⑩ S	
	分				-		
	分				-		
	分				-		
	分				-		
	分				-		
	分				-		
	分				-		

戦評者 所属【 小野・県立西宮 】 氏名【 笠原・石塚 】  
 両チーム4-4-2システムでゲームはスタート。関学は、シンプルに相手DFラインの裏を狙う。神戸弘陵は、ショートパスからFW⑩⑩にボールを入れチャンスをつう。前半29分、神戸弘陵がショートパスから中央突破をはかり、そのこぼれ球を⑩が冷静にフォアサイドにシュートを決め神戸弘陵が先制する。その後は、両チームセットプレーを中心に得点をつうが得点には至らず前半を終える。後半立ち上がりも、ドリブルとショートパスを主体に攻め込む神戸弘陵に対し、粘り強くボールに絡みカウンター攻撃を狙う関学の攻防が続く。関学は、後半20分過ぎから積極的な選手交代により局面の打開をはかるが、神戸弘陵は③を中心にその攻撃をはね返し、そのままゲームは終了。ロングスローや力強いCKを武器に最後まで走り続けた関学に賛辞を送るとともに、常に相手コートでの高いポジションを軸に相手との駆け引きにより多彩な攻撃を見せた神戸弘陵に兵庫県を制する可能性を感じさせる好ゲームであった。

[備考]